川端俊英著
『「破戒」の読み方』

本書は氏の作品、『「破戒」とその周辺』の位置づけることができる。本書における氏の分析の観点は概ね以下の四点に設定されていると考えられる。一点目は、作品の成立論からの分析である。氏は、分析の中心に部落問題を据え、作品の背景を明確にしつつ、新たな読み返しを行っている。

二点目は、作品分析論からの分析である。氏は特に作品の結末部分に注目し、丑松のテキサス行きのモチーフが成立した要因を当時のテキサス移民の状況を踏まえて考察を加えている。

三点目は他作品及び関連作品との比較による分析を行っている。氏は分析にあたり、ドストエフスキーの「罪と罰」及び戯曲『破戒』の劇中詩である藤村の詩作との関係を抽出し、作品の分析を進めている。

最後に四点目は、受容論の観点から分析を進めている。現代の若い読者の受容状況を提示している。

（A5判、二一六ページ一九九三年十月、文理閣）

（松友　一雄）